

なにこれ!? 珍本12選

篠崎図書館にある本は約83000冊(平成27年4月1日現在)。ユニークな本であっても、普段はたくさんの本の中で埋もれがちです。そこで今回は、マニアックなテーマだったり、珍しい事象を扱っていたりする、篠崎図書館の個性派本をご紹介します。



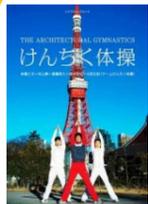
『神々の左手』
エド・ライト著
スタジオタッククリエイティブ
280ラ
篠崎ほか所蔵

本書は左利きにスポットを当てた偉人伝です。私はこれまで歴史上の人物の利き手を意識したことはありませんでした。社会学者である著者が注目した左利きの天才たちが、人類の歴史に与えてきた恩恵や影響ははかりしれません。



『デザインマンホール100選』
池上 修ほか著
アットワークス
518イ
篠崎ほか所蔵

マンホールには、その街の特徴を示す様々なデザインが施されています。この本では北海道から沖縄まで、多種多様なデザインのマンホールを紹介しています。身近にあるマンホールがどのようなデザインなのか、見てみたくなる一冊です。



『けんちく体操』
米山 勇ほか
体操と文
エクスナレッジ
520ケ
篠崎ほか所蔵

建築と体操という異色の組み合わせの本。国内外の建築物を1人～数人の体で表現しています。一緒に掲載されている実際の建築写真と良く見比べてみて下さい。時には顔の表情まで使い細かく表現していて、建築への愛情が伝わってきます。



『凄い漢字』
Ishimizu著
PHP研究所
821イ
篠崎所蔵

漢字研究が趣味の中学生が紹介する数々のマニアックな漢字たち。見たことのない漢字や印象的な意味を持つ漢字など盛りだくさん。例えば、死の次と書く「歺」(シ)という漢字、意味は「よみがえる」とのこと。漢字の世界は奥深いです。



『写実画のすごい世界』
月刊美術編
実業之日本社
723シ
篠崎所蔵

写実画は文字通り見たままを写し出す絵画です。一瞬写真と見まごうばかりの精緻さですが、絵画でしか表現することのできない迫力があります。この本は現代の日本の写実画家の作品、とくに女性の姿をとらえた絵を中心に構成されています。作家によって絵の雰囲気や趣が違ふところも魅力です。



『怪奇鳥獣図巻』
伊藤 清司監修・解説
工作舎
721カ
篠崎ほか所蔵

『怪奇鳥獣図巻』は中国の『山海経』という書物から中国の妖怪を収録した江戸期の絵巻物です。九尾狐や猿などのおなじみの妖怪はもちろん、中国の妖怪ではない正体不明の妖怪も収録されており、古代中国と江戸期日本のイメージが交差する、興味深い妖怪図鑑です。



『うんこがへんないきもの』
早川 いくを著
KADOKAWA
480ハ
篠崎ほか所蔵

うんこを崖っぷちでしたり、武器にしたり、うんこに擬態したりするいきものたち。ある地域では、うんこによって生態系が作られたりもしています。様々な生物の奥深きうんこの世界を紹介した一冊です。当たり前ですが、食事中はオススメしません。



『戦国武将 変わり兜図鑑』
須藤 茂樹解説
新人物往来社
756セ
篠崎ほか所蔵

愛の字、巨大な角や三日月、仏、鳥帽子、さらにウサ耳、ミズク、毛虫などなど。名のある武将達が、実際に使用したアバンギャルドな作りの兜の数々。これらを装着した武将たちが一同に会したら、合戦ではなく仮装大会が開けそうです。



『私、食虫植物の奴隷です。』
木谷 美咲著
水曜社
627キ
篠崎ほか所蔵

食虫植物にぞっこんの著者の日々と、その仲間達の交流を描いた本書。栽培の話はもちろん、即売会での失敗談や野生種探しの冒険譚。果ては、実際に調理して食べてしまう溺愛っぷり。読み進めていくうちに、食虫植物にハマっていきますよ。



『ダンボールハウス』
長嶋 千聡著
ポプラ社
383.9ナ
篠崎ほか所蔵

ダンボールハウス……本書では訳あって路上で生活する人々の住居を指します。その材料から間取りまで、未知の世界の全容を明らかにしたのがこの本。普段、中々立ち入ることのない空間を是非見てみてください。



『股間若衆』
木下 直之著
新潮社
712キ
篠崎ほか所蔵

最初に目を引いたのは「古今和歌集」と一字しか違わない語呂の良さ。次に「股間」と「若衆」の2つの単語。いったい何の本？ 中の写真を見るたびに、通報されなかったのか？とそのことばかり考えていました。



『食中毒への道』
ドンタコスとゆかいな仲間たち編
小池書院
049シ
篠崎所蔵

この本は、食中毒になるには何を食べたらいかが、体験者のエピソードとして語られています。熟成肉は今ブームですが、熟成させる(?)食品は選んだほうがいい、という教訓を授けてくれるすばらしい一冊です。

そのメロディに魅せられて♪

「朗読CDの世界」

俳優・声優さんが小説や童話を朗読する「朗読CD」をご存知ですか? 「声で聴く読書」として「本を読む」という行為とは違った想像力が働く、という魅力があり、多くの方にご利用いただいています。私感ですが、朗読で聴く方が本を読むよりも情感に訴えるものがある気がします。この間も久しぶりに自分で利用してみたのですが、『かわいそう象』、胸が張り裂けそうになりました……。きっと、秋山ちえ子さんの声に戦争の悲惨さを訴える想いもこめられているからで

しょう。気が付くと朗読の世界に入り込んでしまっていて、あっという間に時間が流れていました。篠崎図書館ではカセットテープから買い替えた分も含め、およそ150点の朗読CDを所蔵しています。村岡花子さんが童話を朗読しているものや、おなじみの池波正太郎・山本周五郎などの時代小説、また日本の名作など様々な作品がありますので、お気軽にお問合せ下さいね。